

# Letter for Members

## 【コンテンツ】

● 古谷野理事長 日本学術会議会員に就任……	113
● 支部学術大会 ……………	113
● 第14回国際補綴学会 (ICP) ……………	116
● JOR ワークショップ・CORE China 2011	117
● 第7回アジア補綴学会 (AAP) ……………	118

## 古谷野 潔理事長 日本学術会議会員に就任

本学会の古谷野 潔理事長が、野田内閣総理大臣より日本学術会議の会員に平成23年10月1日付けで任命され、首相官邸での任命式に参加されました。

日本学術会議は、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う内閣府の「特別の機関」であり、

210名の会員で構成され、今回、105名の新会員が任命されました。古谷野理事長は専門分野「歯学」から選出された3名のうちの1人であり、歯学分野の発展において中心的役割を果たしていただけることと期待するとともに、会員の先生方にもお知らせさせていただきます。

## 支部学術大会報告

### ●東北・北海道支部、関越支部、東関東支部合同学術大会

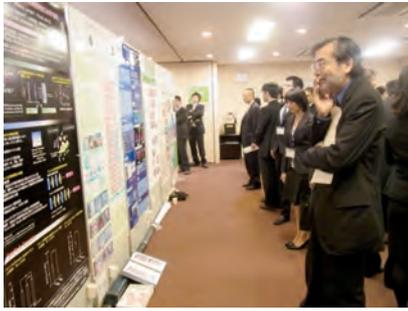
平成23年度(社)日本補綴歯科学会東北・北海道支部、関越支部、東関東支部総会ならびに合同学術大会が、平成23年9月23日(金)、24日(土)に、新潟県歯科医師会館にて開催されました。本大会は、奥羽大学大学院歯学研究科の嶋倉道郎教授の発案により、初の3支部合同学術大会として企画され、嶋倉教授を大会長、日本歯科大学新潟生命歯学部の小出 馨教授、東京歯科大学の佐藤 亨教授の両名を副大会長とし、参加者総数434名の盛会となりました。

大会長挨拶では、東日本大震災の影響により開催地が郡山市の「ビッグパレットふくしま」から急遽新潟県歯科医師会館に変更になった経緯と、新潟県歯科医師会を

はじめとする関係各位への謝辞が述べられました。臨床シンポジウムでは「保存が困難な歯に対する補綴的対応」、メインシンポジウムでは「これからの歯科を担う



好評の臨床シンポジウム



大盛況のポスター会場



自慢の3校合同実行委員会

補綴の新テクノロジー」というテーマで活発な討議がなされ、一般口演、ポスター発表、専門医申請ケースプレゼンテーション、生涯学習公開セミナーでも活発な質疑応答が行われました。別会場での市民フォーラムも70名を超える参加者があり、市民から多くの質問も出されて地域社会との交流がはかられました。さらに懇親会に

は古谷野 潔理事長を含め200名を超える参加者があり、3支部間の交流にも役立つものと思います。今回は大学関係者以外からの参加、演題発表が多くみられ、この大会が今後の支部大会のあり方に一つの示唆を与えたのではないかと感じました。(奥羽大 清野晃孝)

### ●中国・四国支部学術大会

平成23年9月3日(土)、4日(日)に、平成23年度中国・四国支部総会ならびに学術大会が、岡山大学創立五十周年記念館において、岡山県歯科医師会の中島啓一朗大会長のもと開催されました。13年ぶりの岡山県への台風上陸のなか、一般口演発表8題、ポスター発表12題、専門医申請ケースプレゼンテーション1題に加え、市民フォーラム、特別講演、生涯学習公開セミナーと、天候に負けない内容の充実した大会となりました。

市民フォーラムは、台風の襲来のため、JR全線不通のなか開催され、参加ができない市民の方が多かったことは非常に残念でしたが、皆木省吾教授(岡山大)、赤川安正教授(広島大)、前田芳信教授(大阪大)により「歯が抜けた!あなたならどうする!入れ歯?インプラント?インプラントオーバーデンチャー?」というテーマで、それぞれの治療法の立場から素晴らしいご講演をいただきました。なかなか聞くことのできない御三方のセッションは、市民のみならず歯科医師としても貴重なご意見を伺うことができました。特別講演は、松山美和教授(徳島大)により「超高齢社会における補綴歯科の展望」というテーマで、さまざまな側面からの展望を開いていただき、補綴の範疇に留まらず医療への貢献が必要であるとお教えいただきました。生涯学習公開セミナーでは、「インプラントに与える咬合」という非常に難しいテーマを市川哲雄教授(徳島大)、窪木拓男教授(岡



市民フォーラムセッション



松山先生

山大)により、わかりやすく教示していただくとともに最新の情報を発信があり、インプラントに限らず今後の補綴治療全般における咬合を提言していただきました。

悪天候のなかではありましたが、市民の皆さまからの多数のお問い合わせや講演後の演者への熱心な質問風景を目にし、松山先生の講演さながらの補綴歯科の展望を感懐した実りの多い学会でした。(岡山大 荒木大介)

### ●東海支部学術大会

平成 23 年 10 月 1 日 (土), 2 日 (日) に, 平成 23 年度東海支部総会ならびに学術大会が愛知学院大学楠元キャンパス 110 周年記念講堂において, 同大学歯学部高齢者歯科学講座の服部正巳教授を大会長として開催されました。一般口演 20 演題と専門医申請ケースプレゼンテーション 1 演題の発表に加え, 市民フォーラムと生涯学習公開セミナーが併催されました。この大会は東海支部が主催し (社) 愛知県歯科医師会の共催として行われ, 総参加者数は 330 名以上でした。

市民フォーラムのテーマは、『高齢者のお口の手入れと肺炎の予防』で, 岐阜大学の村上啓雄先生から「高齢者肺炎の原因と予防」, また日本口腔ケア学会の鈴木俊夫先生から「美味しく食べる 食べられる ～視点 口腔ケア～」, さらに愛知学院大学の宮前 真先生から「義歯の手入れ」と題したお話をいただきました。高齢者肺炎の多くは誤嚥性肺炎であり, 美味しく食べるためには口腔や義歯の清掃が重要であることが市民に伝えられました。

生涯学習公開セミナーは『大規模災害における緊急歯科治療』というテーマで行われ, 神戸常盤大学の足立了平先生から「大規模災害における口腔管理の重要性」, (社) 愛知県歯科医師会の小川直孝先生から「東日本大震災緊急歯科診療報告 一歯～とぴあⅡ号の派遣について」, さらに愛知学院大学の増田達彦先生から「緊急歯科治療における義歯のあつかい」というご講演をいただきまし



会場の 110 周年記念講堂



一般口演の様子

た。阪神淡路大震災や東日本大震災後の救援活動のお話から, 歯科や歯科補綴装置の重要性について学ぶことができました。

詳細は大会ホームページ <http://pros.agu.ac.jp/> をご覧ください。  
(愛院大 竹内一夫)



## アメリカ合衆国・ハワイ島

# 14th International College of Prosthodontists (ICP) Meeting

### 前田 照太 (大歯大)

2011年9月8日～12日にかけて、国際補綴歯科学会(ICP)会長Dr. Sang-Wan Shin(韓国)とDr. Thomas D. Taylor(USA)のもと第14回ICP Meetingがハワイ島のワイコロアで開催されました。ハワイ島はハワイ諸島のなかで最も大きな島(四国の約半分)で、4,000 m以上もあるマウナ・ロアやキラウエアという活火山があり今でも成長し続けている島です。会場のHilton Waikoloa Villageは、溶岩の上にできた巨大な76,000坪もの敷地にあり、トラムを利用して移動するようなところでした。事前にドレスコードはハワイアンカジュアルというアナウンスがあり、出席者はリラックスした服装で参加されていました。そのような雰囲気なかで、本学会の古谷野潔理事長、矢谷博文、小宮山彌太郎両副理事長、市川哲雄学術担当理事、前田芳信国際渉外担当理事をはじめ多数の本学会員が出席しました。

学術講演は2つのFocus Session, 8つのConcurrent Sessionからなる84題のOral Presentation(招待37題, 一般口演47題), 182題のPoster Presentationによる盛大な発表が行われ各会場で活発な討議が繰り広げられました。プログラム全体からみるとインプラント関連の演題が多いものの、材料、可撤性義歯、審美、接着歯学、顎顔面補綴など以前より幅広く補綴臨床を網羅しているような印象でした。Graduate Student Treatment Sessionでは若い大学院生たちとICPでは重鎮のGeorge Zarb先生(カナダ)やIven Klineberg先生(オーストラリア)らがきわめて活発な議論を展開していました。日本の大学院生たちも挑戦してほしいものです。

日本からは矢谷博文先生(大阪大)、南昌宏先生(大阪市)が招待講演をされました。また日本からの一般口演は5題、ポスター発表は86題と多く、ICPにおける日本の貢献度の大きさが感じられました。

ソーシャルイベントとして、Welcome Sunset Receptionでは太平洋の見えるプールサイドで素晴らしい日の入りを眺めながら各国の参加者同士で再会を祝い、Social OutingではHawaiian Luau(ハワイの宴)があり、The Fairmont Orchidでポリネシアンダンス、ハワイアンダンスを楽しみながらのパーティーで大いに



Hawaiian Luau 参加者、Hawaiian Dance の練習、Social Outing にて



ICP Presidents : Dr. Thomas D. Taylor, Dr. Sang-Wan Shin, ICP Vice Presidents : Dr. Martin Gross, 前田芳信先生



大会初日オープニングセレモニーにて

親交を深めました。今回のICPではOpening Ceremonyを含め、ソーシャルイベントに参加してハワイの伝統文化に触れることができたと思います。

大会最終日には、次大会の第15回ICP Meetingはイタリアのトリノで2013年9月に開催されることが紹介され、2年後の再会を楽しみにして本大会は盛況のうちに閉会となりました。

## 中国・西安 JOR ワークショップ Colloquium on Oral Rehabilitation – CORE China 2011

### 徳江 藍 (鶴見大)

2011年10月20日から23日までの4日間、中国の西安においてCORE China 2011が開催されました。西安は中国中部に位置し古くは古代諸王朝の都として栄え、世界遺産である秦の始皇帝陵や兵馬俑博物館がある都市です。

日中の気温は日本と同等かやや肌寒い程度ですが、朝晩の冷え込みは厳しく乾燥した大陸の気候を肌で感じることができました。日本から西安への直行便がないにも関わらず、熱心に学会へ参加する本会会員の姿も見受けられました。

今回、“A critical update on occlusion”というテーマでワークショップが郊外のホテルで開催されました。咬合をテーマに約1時間半のプレゼンテーションが午前2題、午後2題行われ、その後facilitatorを交えて活発なdiscussionが繰り広げられました。日本からのspeakerとして、22日には古谷野潔理事長が“Rehabilitation of occlusion – science or art?”, 23日には鶴見大学の久保力廣先生が“Interactions between occlusion and brain function activities”という演題のプレゼンテーションをされました。講演時間は長かったのですが、とても興味深い内容であったという間に時間が過ぎてしまいました。Discussionの時間も十分あり聞き応えのあるご講演でした。

講演の合間には、あいにく雨でしたが学会参加者と兵馬俑博物館を訪ねました。世界八番目の不思議と呼ばれる壮大なスケールの兵馬に圧倒され、秦始皇帝の強大な力を感じました。その後、大会運営された第四軍医大学歯学部を見学させていただきました。大学内には口腔医院院史館や口腔医学博物館など貴重な歴史的価値のある品々が展示してあり、参加者は皆感心していました。

Occlusionを中心に、学会参加者と深く語り合いながら、とても有意義な時間を過ごすことができました。

古谷野先生、久保先生の他には下記の内容のプレゼンテーションが行われました。

- “Occlusion”: where are the questions and how should we be asking them? Establishing better biological models to understand occlusion  
(Dr. Andrew Pullinger)



日本から参加された先生方



秦始皇兵馬俑博物館

- Methodological challenges in the study of occlusion (Dr. Asbjørn Jokstad)
- The biomechanical role of occlusion in the masticatory system (Dr. Meiqing Wang)
- Are bruxism and the bite causally related? (Dr. Frank Lobbezoo)
- Occlusion on implants – is there a problem? (Dr. Ivan Klineberg)
- Malocclusion as a risk factor for TMD – epidemiological studies (Dr. Jens Türp)
- Orofacial pain caused by occlusal trauma (Dr. Liu Hougchen)
- The difficult relationship between occlusion traits and TMD – insights from animal and human experimental studies (Dr. QiuFei Xie)

## 中国・上海 第7回アジア補綴学会 (Asian Academy of Prosthodontics: AAP) に参加して

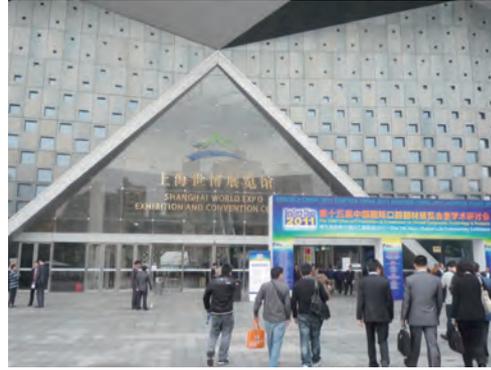
権田知也 (大阪大)

第7回アジア補綴学会 (Asian Academy of Prosthodontics: AAP) が10月29日、30日に中国・上海で開かれました。AAPは1999年に第1回目が韓国・ソウルで開かれ、2年に一度の開催で今年が7回目となります。参加者はアジア各国から288名が参加し、同時開催された中国補綴学会 (CPS) の参加者を含めると参加者は700名を超えました。2日間にわたり基調講演3題、招待講演12題、口演発表20題、ポスター発表150題と多数の講演、発表が行われ、活発なディスカッションが行われました。普段接することのないアジア各国のさまざまな発表を見ることができ、さまざまな先生方とお会いし、お話しすることができる貴重な機会を得ることができました。

基調講演として、南カリフォルニア大学のDr. Avishai Sadanが審美歯科について、International Collage of Prosthodontists (ICP) の前会長である韓国のDr. Sang-Wan Shinが下顎インプラントオーバーデンチャーについて、中国口腔医学会副会長のDr. Yimin Zhaoが顔面補綴の3次元シミュレーションデザインと製作方法について講演されました。また、招待講演は日本、韓国、インドからの講演があり、日本からは大阪大学の前田芳信先生が「Implants with removable dentures: helpful and effective combination」と題して講演されました。

口演発表の10題とポスター発表の一部から優秀演題が選定され、閉会式の際に表彰されました。日本大学松戸歯学部河相安彦先生がOral Presentation Award Competitionにおいて「Comparing the subjective outcomes and the occlusal adjustment time of fully bi-balanced and linguarized occlusion」と題して発表され、第1位を獲得されました。おめでとうございます。また、筆者権田は「Influence of offset placement on implants on stress distribution of implant and abutment screw」と題して発表し、第3位に選ばれました。ありがとうございました。

さらに、ポスター発表からは新潟大学の野沢恩美先生が基礎系1位「Gene expression of HSP27 during the course of osteoblast differentiation and



学会場となった上海万博コンベンションセンター (中国のデンタルショーとの併催であった)



講演会場風景



ポスター会場



ディナークルーズ船上からの上海の夜景



ウェルカムバンケットでの日本、中国、韓国からの教授陣

mineralization」, 九州大学の益崎与泰先生が基礎系 2 位「Single perilesional injection of stain enhances bone healing around titanium implants in rats」, 東北大学の小山重人先生が臨床系 1 位「Long-term results of maintenance care on periodontal condition of remaining teeth five year after RPDs placement」, 岡山大学の水口 一先生が臨床系 3 位「Relationship between sleep bruxism frequency and 5-HT uptake ability of human peripheral serotonin transporter」にそれぞれ選ばれました。本

当におめでとうございます。日本からの多くの演題が受賞し、アジアにおける日本の補綴研究の優位性が実感できました。

前日の夜には上海の夜景を楽しむディナークルーズ、初日の夜にはウェルカムレセプションが盛大に行われました。ディナークルーズの船上からは、上海の美しい夜景を楽しむことができ、またウェルカムレセプションでは食事とエンターテイメントが楽しめました。主催された中国の方々のホスピタリティーに参加者は大いに満足していました。

また今回の AAP に合わせて前日の 28 日には日本、韓国、中国 3 カ国合同の補綴学会が開かれました。中国から 2 名、韓国から 2 名、日本から 2 名の演者が講演されました。日本からは九州大学の古谷野潔先生が「Occlusion and Prosthodontic Practice: past, present and future」と、岡山大学から窪木拓男先生が「Biological regenerative medicine in prosthodontic practice -to attain reliable and sophisticated dental implant therapy」と題して講演されました。

次回の AAP は来年 2012 年 12 月 7 日から 9 日まで、インドのチェンナイで行われる予定です。日本からも多数の参加が期待されます。

